

# コロナ禍における 「入院時スクリーニングの 運用見直しについて」

東寺南病院 TQM委員会  
奥村 隆(放射線部)

## 【テーマ選定理由】

入院時スクリーニングの運用について改善要望が多かったため

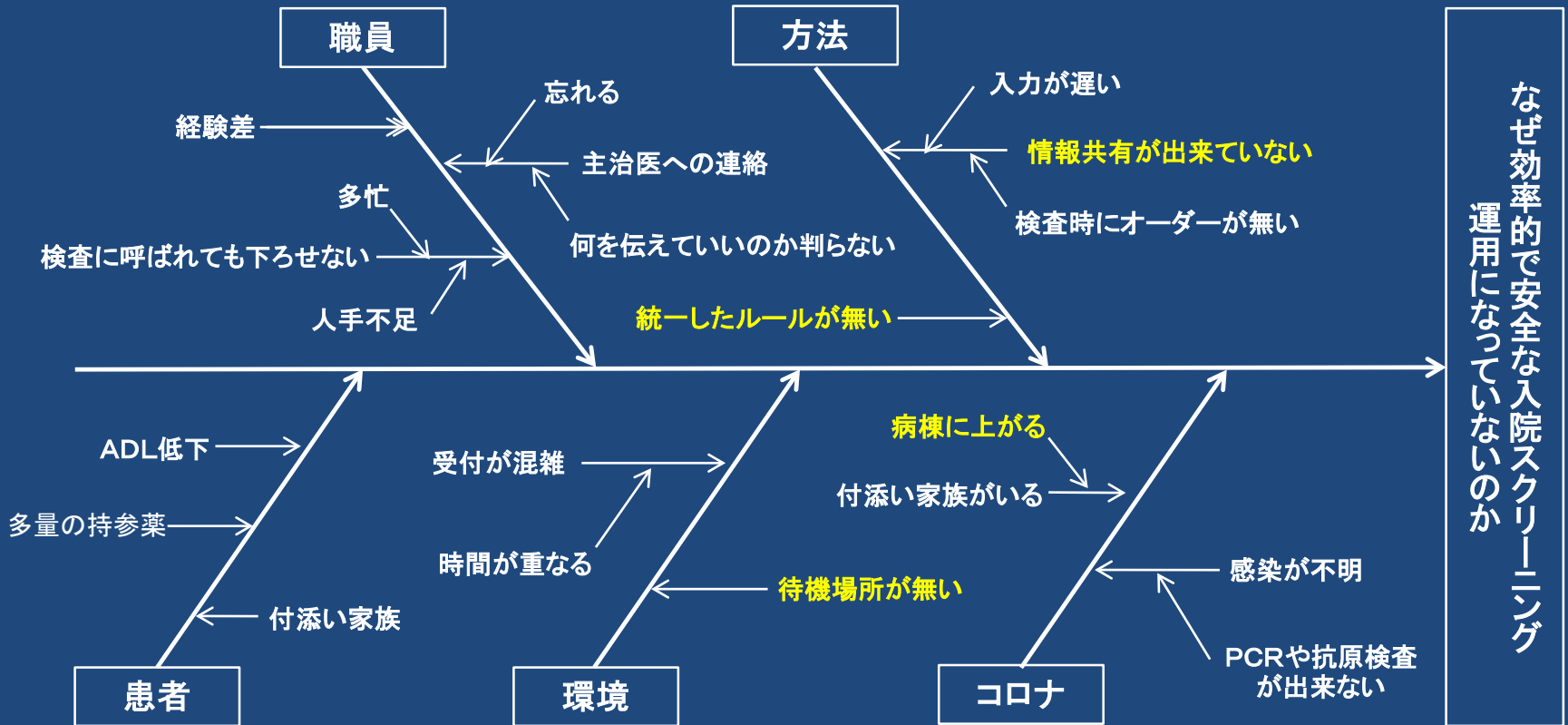
## 【現状把握】

- ・検査ルート・連絡系統が不明瞭
- ・受付で長時間待たせる
- ・患者、家族の階をまたぐ移動が多くサービスの低下を招いている
- ・病棟へのコロナウイルス持ち込みリスクが高い
- ・持参薬確認・検薬に時間がかかる
- ・主治医が希望するタイミングで患者の情報を連絡できていない
- ・部門間の連携に対してスタッフの不満が発生している

# 【目標】

病棟にご案内する前に必要な検査を実施できる体制を整備し、コロナ持ち込みリスクを最小限にする事と患者負担の軽減、職員の作業時間短縮をゴールとした

# 【要因分析】



# 【対策実施】

## 第一段階

- ・受付⇒検薬⇒検査⇒病棟とすることを確認(基本ルート確立)
- ・基本ルートに沿って入院フローチャートを作成
- ・コロナ対策として検温、胸部CTを実施(コロナ対策委員会)
- ・患者及び付添いの為の待機室を設置(2室)
- ・医師への連絡のタイミングについて確認を行った
- ・情報共有ツールは電子カルテとする

# 【対策実施】

## 第二段階

- ・待機室の追加と鍵・ベルの整備
- ・管理課が待機室の使用状況の管理
- ・フローチャートの定期的なブラッシュアップ

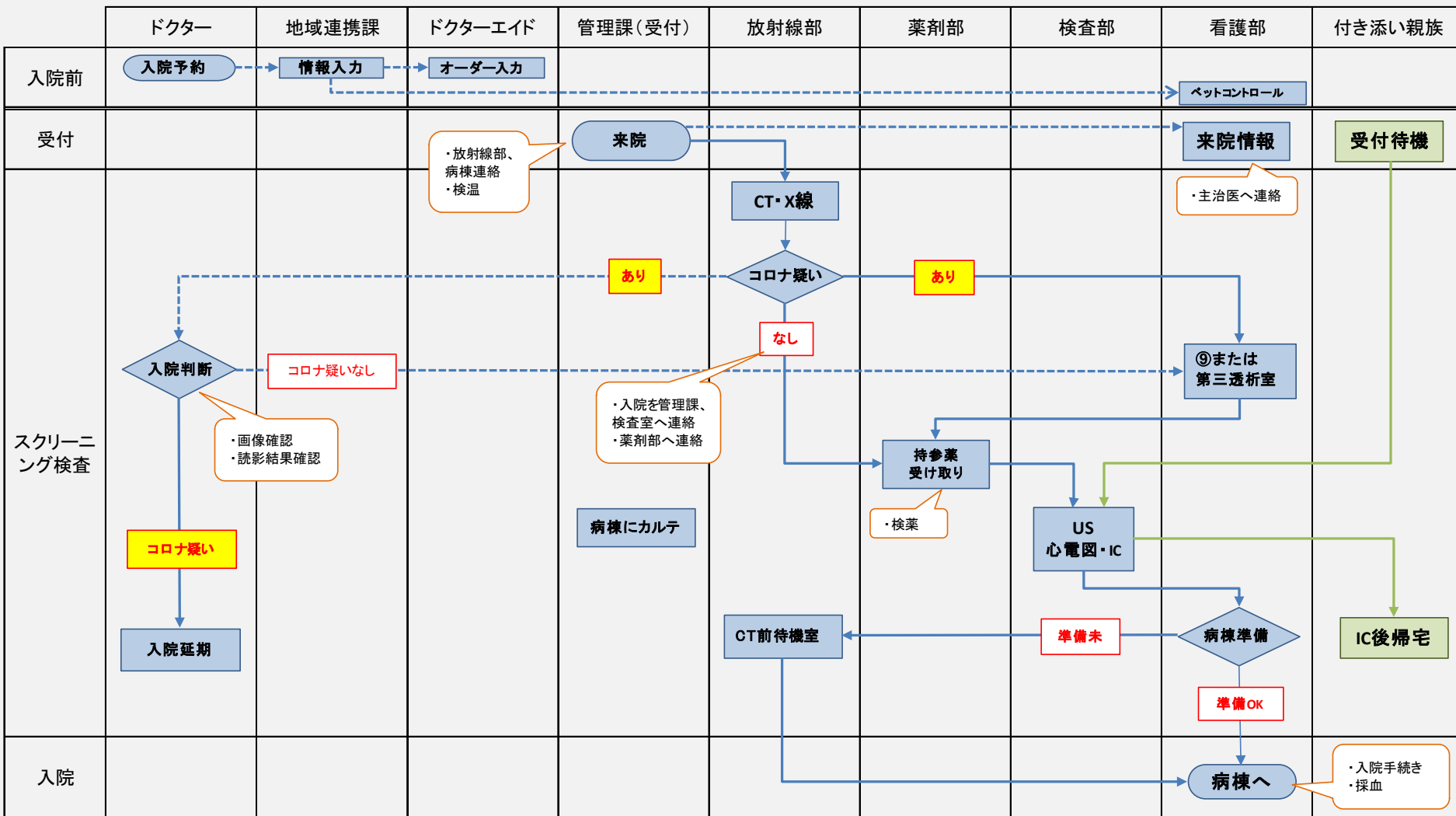
## 第三段階

- ・コロナ対策として1抗原⇒2音羽PCR＋抗原⇒現在ID NOW＋抗原を順次導入
- ・フローチャートの定期的なブラッシュアップ(資料1)
- ・改善の評価アンケートを実施(資料2)

# 資料1 フロー

## 入院フロー

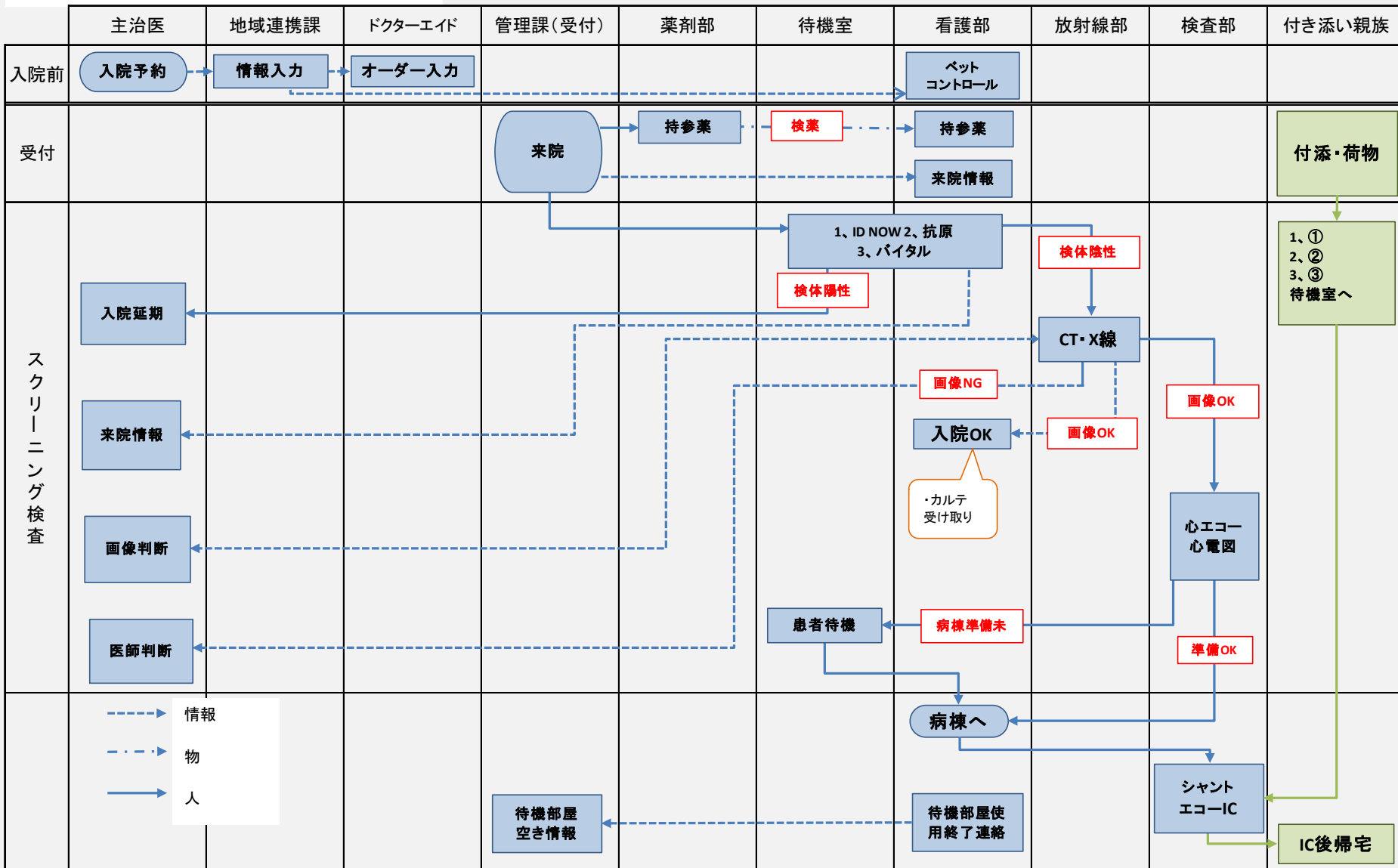
8月5日



# 資料1 フロー

## 入院 フローチャート

3月25日



# 資料2 アンケート

東寺南TQM委員会活動報告

活動目的⇒ ①全部門が参加し医療・サービスの質を継続的に向上させ、安全で信頼の得られる医療を提供する。  
②職員が笑顔で仕事に取り組める職場環境を実現する活動とする。

2020.11.30

	問題点	改善内容	効果	継続・終了	対象部署	活動目的に沿った改善となったかの評価をお願いいたします。 5評価できる 4まあまあ評価できる 3どちらでもない 2あまり評価できない 1評価できない
1	入院時のルールが無く検査ルート、連絡系統が不明瞭であった。	TQM支援センタからフローチャートの作成法を指導頂き、入院時スクリーニング連携フローチャート(PCR検査有り、無し)を作成した。	人、情報、物の動きを明らかにした。関係部署が同じフローチャートを確認しながら行動することで業務の重なりが無くなり、新たな課題も明らかになった。	継続	全部署	5・4・3・2・1
2	入院患者が受付後に管理課員と病棟に上がってきたら、すぐにレントゲンやエコーなどの検査に降りるため、案内していただいてもそのまますぐに戻る状況がある。	来院⇒検査⇒病棟という基本ルートを確立した。	病棟に上がった際はすでにスクリーニング検査は終わっており、原則、再度検査に戻る事が無くなった。	終了	全部署	5・4・3・2・1
3	入院予定患者さんに対して、病棟への案内までの待ち時間が長い場合がある。コロナウイルスの感染リスクの事を考え入院患者さんの受付での滞在時間を短かくできないか。	経営管理部のの協力を得て、1階に待機室として①、②、③を新たに設置した。待機室③はPCR検査を受ける入院予定患者さん用に使用可能となった。	受付での待機時間は短縮し他の患者さんと15分以上滞在することが無くなり受付の混雑が解消した。入院予定患者でPCR検査を受ける患者を隔離できるようになった。	終了	管理課	5・4・3・2・1
4	患者家族、付き添いが病棟に上がってくる。OPE決定がエコー後であり、エコー時に本人、家人に説明後同意を得ているため面会禁止ではあるものの病室でエコーまで待機している。全ての入院患者が個室入院でもないで待合場所に悩むケースがある。	コロナ対策会議での決定事項を踏まえ、病棟への立ち入りは全面禁止となった。家族、付き添いは待機室①、②、③で待機とし、10時に2名までが検査室へ入室できることとした。	新型コロナウイルス対策として、感染リスクの低減ができた。家族の付き添い者への対応方法が決まった事で対応に難渋しなくなった。	終了	看護部 検査部	5・4・3・2・1
5	入院予定患者の情報、入院前のPCR検査の有無など電子カルテで情報共有できるようにしてほしい。	医療介護サービスセンターが、入院予定患者者について電子カルテ上の「ベットコントロール」に遅滞なく入力を行うこととした。オーダー入力についてもドクターエイドが事前入力する。	全職種が電子カルテで入院予定患者の確認や情報収集ができるようになった。また、オーダー入力はドクターエイドが行う事で他職種の業務予定がわかりやすくなった。	終了	全部署	5・4・3・2・1



6	入院患者さんの受付された事を、主治医へ電話の希望するタイミング・内容で行えていない。	フローチャートを用いて院長に確認をとった。来院後の早いタイミングでのコールが希望された。担当看護師が顔合わせ後に直ちにバイタルチェックを行い、患者状態や付添者の情報を連絡することとなった。	主治医が患者さんの入院をリアルタイムに把握でき、ICまでの時間調整をしやすいになった。	終了	看護部 主治医	5・4・3・2・1
7	入院時持参薬確認・検査が検査などで患者が不在となり確認するまでに時間がかかってしまうことがある。	待機室へ案内する前に受付で薬の受け渡しを行う事とした。PCR有入院の場合はPCRの結果が判り次第、③にて行うこととした。	スクリーニング検査前に行う事で検査作業の時間短縮に繋がった。	終了	薬剤部	5・4・3・2・1
8	土曜日は基本的に午後半休の勤務体制のため、午後入院の方のためのみに残業しているの、できるだけ早く検査に回って欲しい。(検査部より)	来院後の早い段階で検査を行える体制へ整備、来院⇒検査⇒病棟という基本ルートを確認する。	来院後に検査に回るまでの時間が短縮された。しかし、午後入院の予定時間が遅いことや緊急入院が多く残業解消には至っていない。	終了	検査部	5・4・3・2・1
9	待機室の空き状況が分からない。	管理課にホワイトボードを設置し入室管理を行う 使用後の連絡は病棟看護師より管理課へ連絡する。	情報と使用している部屋が分かるようになった。	終了	管理課	5・4・3・2・1
10	待機室の施錠が出来ず、防犯上問題がある。	鍵を取り付けた。業務時間外の最終の施錠は守衛にお願いすることとし	待機室からの職員スペースへの立ち入りを防止することができた。。	終了	管理課 放射線部	5・4・3・2・1
11	事前に患者ADLが把握できない。	地域連携課から管理課に連絡し、ホワイトボードに記載することとした。	情報把握できるようになった。	終了	管理課 地域連携課	5・4・3・2・1
12	入院前のPCR検査を受ける患者(待機室3)への昼食提供をいつ、誰が行うか。	可能な限り栄養管理室も配膳に協力する。介助が必要な場合は病棟看護師にて対応する。	PCRの結果が出るまでの時間を利用して患者に食事を提供する事が出来るようになった。多部門が協力する体制が	終了	栄養管理室 看護部	5・4・3・2・1
13	コロナ対策	第一検査として胸部CTにてスクリーニングを行い、①主治医②常勤医③遠隔読影(放射線医)のいずれかにて確認を行ったのち、基本ルートに沿って患者移動を行うこととした。PCR後入院についても基本ルートに沿ってフローチャートを作成した。新型コロナウイルス対策会議との連携を行い方針を決定。	病棟に上がった際はすでに、コロナチェックは終わっており、感染リスクは最小限に抑えることができた。病棟スタッフの心理的不安の解消に繋がった。TQM委員会での疑問点を感染対策委員会で検討することができた。	終了	看護部 放射線部	5・4・3・2・1
14	待機室に担当看護師が来るまでに時間が掛かる。	管理課から病棟への連絡を院内電話から管理者携帯へコールに変更。	速やかに担当看護師が待機室に訪問できるようになった。	終了	管理課 看護部	5・4・3・2・1
15	待機室入室から放射線検査案内までの時間が担当看護師によってばらつきがあり時間が掛かることがある。	顔合わせ時に行う作業について、再度周知を行った。(個人差は依然残っている。)	運用当初より速やかに検査案内出来るようになった。待機中家族が入院手続きを並行して行う事ができた。	継続	看護部 放射線部	5・4・3・2・1

## 【効果の確認】

- ・フローチャートにより人、情報、物の動きが明らかになった
- ・待機室の設置により感染対策と混雑の解消が行えた
- ・検査終了後に病棟に案内する体制が整った  
(病棟スタッフの心理的不安の軽減に繋がった)
- ・受付で薬の受け渡しを行う事で検薬作業の時間短縮に繋がった
- ・主治医は来院が把握できICの時間調整をしやすくなった
- ・アンケートの結果は5点満点中**全項目の平均が4.2**と高く、改善が評価されている事が示された

## 【まとめ】

検査体制・コロナ対策・患者負担の軽減・作業時間短縮



達成！！

- ・多くの職種が関わるテーマであったなか、会議の中で意見を出し合い検討する事で協働することができた
- ・周知方法や習熟までの教育の仕方などが今後の課題となった

ご清聴ありがとうございました。